



読字 故 原 田 親

No. 572

2009/4/25

日中友好新聞

発行所
日中友好協会
〒113-0033 東京都文京区
西新井1-1-1 東1号213室

日中友好協会
岡山支部
〒700-8236
岡山県岡山市東区3-8-30 511
TEL:0861272-3010
郵便番号11所
01250-0-3835

日中友好協会
倉敷支部
〒713-8014
倉敷市遊島中央1-8-4
(宮地方)
TEL/FAX:0860446-2711

日中友好協会岡山支部ホームページ
<http://rizhong.web.infoseek.co.jp>
メールアドレス
rizhong86@hotmail.co.jp



宗景正 写真展岡山市役所で開催 祖国よ！ 中国「残留日本人孤児」はいま



なかには写真家の宗景さんと体験を話しこんだ女性もいました。
観覧者は約200人で主催3者（日中友好協会岡山支部・中国帰国者の日本語教室おかやまの会・岡山市保健福祉局福祉援護課）の協力が実りました。途中OHKの取材もあり「孤児」のいまを伝えることができたと思っています。

4月20日（月）、岡山市北区の区役所1階ロビーで宗景正さんの「祖国よ 中国残留日本人孤児「はいま」と題する写真展が開催されました。
原告団の高杉団長、大森副団長、高見事務局長を取材した写真も展示されています。期間は22日までの3日間です。
午前中は、資料の準備や展示物の取り付けなどに日中岡山から、竹内・小林理事、通訳の南蓮さん、馬小菲さん、さらに井上愛子さん、貝吹さんらたくさんの方が力を合わせました。
さいでん日本語教室の講師、受講生を始め区役所を訪れた市民たちも立ち止まって写真に見入っていました。



日中文化講座 「いまの中国をどう見るか」 —漫画・映画を通して—

とき:5月16日(土) 午後2時~4時
ところ:県立図書館 2階多目的ホール
参加費:500円(チケットあり)
主催:日中友好協会岡山支部・倉敷支部
共催:岡山県AALA連帯委員会

理事会だより

4月9日の理事会には2人の監査を含む8人が参加
☆北朝鮮のロケット発射について、日本政府の異常な対応、おまけに「誤探知」というオタナチンな単語を発明。
☆オバマ核兵器廃止発言を歓迎する。
☆総務省が改憲。パンフを5000万部、自治体におろした。1500万円也。
☆支部総会(6月21日)のための議案書を分担して書くことを決める。5月14日、原稿を持ち寄り検討、6月初めに印刷。
☆08年度の会計報告は次回にまわされた。
☆日中文化講座(石子順さんの講演)の取り組み進行状況を点検。
ぜひ、多くの方に参加を呼びかけ、ともに多くの会員、読者の皆さんの参加をお願いします。
☆4月20日~22日の宗景正写真展(中国 残留日本人孤児「はいま」の係を分担する。
☆例年の機関紙コンクールにNO568と570号を出すことにした。

竹内和夫

日中岡山9条の会主催

上野千鶴子を読む会

『おひとりさまの老後』の読書会を開く

4月19日(日)朝10時から12時まで、岡西公民館で開かれた読書会に参加された方は4人です。荒武さん、梶尾さん、則武さんと私です。

初めてのことで、まず自己紹介から始めましたが、その途中から、本の中身の先の話が話題の中心になってきました。つまり、どういふ死を迎えるのかということなのです。

「20数年ほど前主人を亡くしたのですが、脳梗塞の治療でかかった病院で肺ガンをみつけられました。タバコも吸わないのに肺ガンになっていた事を知らなくて、病院ですぐ手術をと言われたのですが、本人がそういうことをとても嫌がる人だったの



と、医師のあまりの言いように不信感を持ったもので、退院して地元に戻りました。地元で懇意にしていた内科の先生のところへ入院させていただいて、数ヵ月後、医師の「もうそろそろいいですね」という言葉に「はい」と答えたところその夜に亡くなりました。今でも納得していません。「今ならとても考えられない事ですが、当時はそういう状況だったようです。インフォームドコンセント(説明責任)など知らなかったころでしょう。」

のままといふわけにはいかず、加圧式の人工呼吸器は付けさせてくださいという医師の提案は拒否できませんでした。今も夜、眠る時は装着しています。もうすでに、本人の意思を再度確認することはできません。私たちの最後の時の意志は文書にしておかないと、医師には伝わらないと思います。

私はすでに、協立病院の医師に、無駄な延命治療を行わないでくれと意思表示した手紙を渡しています。また、尊厳死協会の会員にも登録しています。そして、献体(遺体を医学生生学習のために提供する)もしており、火葬のあとの灰も返さなくて結構で、合同葬でお願い

いしますと、伝えてあります。私も手続きをしようと考えております。私は、墓はいらないけれど、遺体の灰をどうしてもらおうかと、考えています。何か小さな入れ物にでも入れて、どこかに置いてもらいたいと思うんだけど「それは、残った人には迷惑よ!」灰を散骨するのは、許可が要るそうね。人に聞いた話だけれど、灰を粉にして、ご飯でまぶして、団子を作り、鳥に食べてもらったというだけだ」

「この本に書いてあることは、理解できることなだけで、彼女はまだ、元気で恵まれているということですよ。お金もあるしね。」

シリア・ヨルダンを旅して

真田紀子

3月20日〜30日まで、シリアとヨルダンに行ってきました。もちろんツアーです。参加者は25名でした。ご夫婦が8組、一人参加が5人、ご兄弟が1組、そして私達です。

東京発のツアーですので、私たちは、関空から合流しました。韓国のインcheon空港発、関空経由カタール航空QR821便で中継地ドーハに着きました。そこで、約7時間の待ち時間があります。12時間のフライトの後ですから、足を伸ばして横になりたいと思っただけですが、そんなスペースはありません。

ふと見ると、空港の一角にガ

ラス張りの大きな空間があり、男性が思い思いに寝そべっています。これはなんだろうと行ってみますと、入り口に「prayer room」と書いてあります。男性用があるなら、女性用もあるはずだと探してみますと

ありました。中に入ってみると、水場が作ってあり、又、ドアがあります。そのドアを開けて中に入ると、やはり絨毯が敷き詰めてあり、女性が思い思いに寝そべています。これは助かったと早速横になり、一眠りしました。そこに2時間ぐらいは居た

わり人がやってきます。中には



シリア、ダマスカスのアイスクリーム屋

次回の新聞発送作業は5月1日(金)午後1時半、民主会館2階で行います。前回お手伝いくださった方です。

葉内和
稲小竹内坪